

3月22日に河野等先生の社会福祉士対策講座の授業見学に参加させていただきました。前週に引き続いてのこの授業見学への参加となりましたが、改めて対策授業である以上、この授業は学生を合格に近づけるため、学問を伝えるのではなく、合格するための勉強をする時間であると感じました。この点は他のキャリア科目でも同様なので、この授業の目的をしっかりと理解して臨む必要があると感じました。

印象に残ったのは、まず、過去問題の授業の進め方です。学生に要点をしっかりと示すことが大切だと感じました。問題集を使用しているため、要点はある程度整理されて記載されているのですが、さらに絞って学生に提示できし、学生が「これならやれる」という意欲を継続して持っていけるようにしなければならぬと感じました。また、同じ問題も何度か反復して覚えさせねばならないということです。1つの問題を学習した後で、再度全体を復習させ、授業の中で反復を繰り返していくようにして進めていく必要があると改めて気づかされました。さらに学生に対しては授業だけで満足せず、何度か反復して学習することを推奨されているところも印象に残りました。

次に、中島総長先生の指示で、実際に暗記をさせるための時間をかなり短く、30秒とか45秒とか、細かく暗記時間を設けるように指示されていましたことも印象深かったです。暗記自体は疲れる作業なので、暗記は限られた箇所を短い時間で区切ったほうがよいということなのだと思います。

また、中島総長先生の学生への声掛けも印象に残りました。試験に突破することで良いことがあることを学生に感じてもらい、勉強の動機づけにすることなのだと思いますが、そのような面も授業に反映させていかねばならないと感じました。今回も自分の参考とすべき材料が得られたと思います。まだ未熟者ではありますが、今回学んだ点を自分の担当箇所でも反映させていきたいと思っております。